



第 98 号

平成21年 3月23日
新潟県特別支援教育研究会
事務局：新潟市中央区
白山浦1-207-3
新潟市立鏡淵小学校内
発行：文久堂

特別支援教育への道程



新潟県特別支援教育研究会 副会長

松浦敏夫

平成十九年四月、学校教育法等の一部が改正され、特殊教育から特別支援教育に転換されました。転換してまだ二年目ですが、今や学校運営の重要な柱として、広く浸透し、校内体制や支援体制等が整えられてきました。また、「一人一人のニーズに応じた教育」の理念は、障害のある子の教育だけでなく、学校教育全体に広く理解されるようになりました。

特殊教育の方向転換は、平成十三年一月に出された「二十一世紀の特殊教育の在り方(最終報告)」が出されてからです。

このとき、就学指導の在り方や学習障害等の教育的支援など幅広く提言されました。この提言の基本は、一人一人のニーズを把握して必要な教育的支援を行うという

考え方に基づいて対応を図るといふものでした。

さらにこの提言を基に、平成十五年三月には、「今後の特別支援教育の在り方(最終報告)」が出されました。障害の程度に応じた特別な場で行う「特殊教育」から障害のある児童生徒一人一人のニーズに応じて支援を行う「特別支援教育」への方向が示されたのです。特別支援教育については、ここで述べるまでもありませんが、このときに、生涯にわたって支援する観点から「個別の教育支援計画」の策定も提言されました。

さらに、平成十六年十二月に「特別支援教育を推進するための制度の在り方(中間報告)」が出され、多方面からの意見が交わされる中、一年後の十七年十二月に答申が示

されました。盲・聾・養護学校制度の見直し、小・中学校における制度的見直し、教員免許制度の見直し等が提言されました。

そして、これを受け「学校教育法等の一部改正する法律」が平成十八年六月に公布され、翌十九年四月一日施行となったのです。

この間、既に各地では様々な特別支援教育への取組がなされました。新潟県では、平成十五年度から「特別支援教育推進体制モデル事業」(文科省委嘱事業)が進められ、地域での支援体制などの整備が図られてきました。この事業も年々充実し、今年度は「発達障害等支援・特別支援教育総合支援事業」として行われています。

このような県の事業と相まって各地で特別支援教育の研修会が盛んになりました。また、当研究会の名称も平成十七年五月に「新潟県特別支援教育研究会」として改称され、各地の研究大会も特別支援教育一色でした。平成十八年十月に行われた全特連全国大会新潟大会も千名を越す参加者で活発な意見が交わされました。

特別支援教育の広がりとともに当研究会の役割もますます大きくなっていきます。

四年間、当研究会の副会長として関わらせていただきました。深く感謝申し上げます。

新潟県特別支援教育研究会 平成三十一年度 事業予定

五月 理事評議員会

八月 三日(月) 佐渡地区大会講演会

六日(木) 関ブ口埼玉大会

二十日(木) 上越地区妙高大会

十月二十九日(木)・三十日(金) 全国大会山形大会

十一月十一日(水) 中越地区見附大会

十一日(水) 佐渡地区大会

十八日(水) 下越村上岩船大会

二月 第二回理事会

*各研究部については、それぞれの計画による。

上越地区大会 上越市南部大会

平成二十年度上越地区特別支援教育研究大会上越市南部大会は上越特別支援教育研究会及び新潟県特別支援教育研究会が主催者となり、上越市教育委員会・上越市学校教育研究会・上越市特別支援教育研究会と共催で行いました。新潟県教育委員会及び上越地区手をつなぐ育成会からは御後援をいただきました。

前回の糸魚川大会は、平成十九年十一月に行われましたが、今回の上越市南部大会は、平成二十年八月二十二日(金)の午後リージョンプラザ上越及び上越市教育プラザにおいて行いました。大会主題を、「一人一人の教育的ニーズに応じる地域ぐるみの支援を求めて」とし、当初、参加予定人数を約二〇〇人としていましたが、夏季休業期間で参加しやすかったため、上越地区の小・中学校及び特別支援教育学校の職員、関連施設職員、上越市内保育園職員、保護者など約三五〇人が参加しました。夏季休業に入ると連絡が取りにくいなどの課題もあり、次回開催の時期については十分な検討が必要です。



各部会では話題提供者の実践について活発な話し合いがなされました。また、県教育庁義務教育課特別支援教育係指導主事 中島秀晴様から全体指導、上越教育大学院准教授 河合康様から御講演をいただき、さらに研修を深めることができました。

中越地区大会 長岡大会

十一月二十日(木)、栃尾地内にある長岡市産業交流センター「おりなす」を会場として「平成二十年度中越地区特別支援教育研究大会長岡大会」を開催しました。大会主題「一人一人に寄り添い、豊かに生きる力をはぐくもう」のもと、分科会と講演会を行いました。

分科会は、「知的・情緒障がい(小・中学校別)」「言語障がい・難聴」「病弱、肢体不自由、重複障がい」「発達障がい」「育成会、保護者の会」の六つに分れて行いました。中越教育事務所・長岡市教育委員会指導主事様、特別支援学校の校長先生方、長岡市手をつなぐ育成会長様をコーディネーターとし、話題提供者の提案のもとに、各分科会ごとに、質の高い協議が展開され、子どもたちへの理解が深まり、支援の方向性が明確になりました。

また、講演会では新潟大学教育学部准教授、長澤正樹様から「特別な支援を要する児童生徒の理解と支援」という演題で講演をいただきました。多様な発達障がいを抱えている子どもたちの把握、教



育的ニーズに応じた支援の在り方、さらに、保護者への対応や進路指導について、大きな示唆を与えていただきました。
研究大会当日は、初雪となる悪天候でしたが、中越各地から、約二百名の方々のご参加をいただきました。実行委員一同、心から感謝しているところです。
これからは、特別支援教育が今まで以上に大切となってきます。そのために、特別支援教育研究会地区大会が、重要な意味をもつと実感します。

六分科会

育成会、保護者の会

豊かに暮らすた

社会や親の

下越地区大会 新発田・北蒲 ・胎内大会

大会主題に「一人一人が豊かに生きるための支援のあり方を求めて」を掲げ、去る十一月二十七日(木)、聖籠町町民会館および聖籠町立山倉小学校を会場として、「平成二十年度下越地区特別支援教育研究大会新発田・北蒲・胎内大会兼新潟県就学啓発推進会議」を開催しました。

当日は天候にも恵まれ、下越全域から(遠くは佐渡市からも)教職員、保護者、教育委員会職員など、約二百七十名の皆さんに参加していただきました。

全体会では、新潟県教育庁義務教育課副参事特別支援教育係長 佐藤昇誠様から「新潟県の特別支援教育の現状と課題」についてご指導をいただきました。特別支援学級の数が増加し、それに伴って専門的な資質を持った人材を育成することが必要であることなど、具体的なお話をいただきました。

分科会では、学校・学級経営部会、知的障がい部会、情緒障がい部会、発達障がい部会、言語・難聴部会、親の会部会に分かれて、

発表者の素晴らしい実践発表(中には、日頃行っているゲームを参加者にもやってみてもらっていた分科会もありました)を基に、活発な意見交換が行われました。保護者の皆さんからも、自分の体験を基にしたご意見(「その子の持っているいいものを引き出してほしい。」など)をいろいろいただきました。



◆**全特連全国大会京都大会**
【大会主題】
 「今日を豊かに生き、あすに向けて豊かな生活をおくるために」
【期日】 平成二十年十月二十九日
 ～三十一日
【会場】 京都府会館第一ホール
 京都市内各学校
【全体会】
 ○表彰式
 全特連功労賞
 本県からは、渡辺吉和前副会長
 ○研究報告
 ◆開催地研究報告
 「総合支援学校のセンター的機能」
 報告者 センターの機能
 京都市立西総合支援学校
 辻 佳英 副教頭
 ◆全特連研究奨励賞受賞報告
 「『釜焼きピザを作ろう』」
 手作りレンガで釜を作ろう」
 報告者 千葉大附属支援学校
 小木秀人 教諭

○**【研究大会の概要】**
 ○京都市の新たな取組みが紹介されました。
 ○記念講演では、大阪教育大学名誉教授 武田契一先生から「2年目を迎えた特別支援教育と発達障害への教育的支援」という講演が行われました。

◆**全特連関フ口大会群馬大会**
【大会主題】
 「一人一人が豊かに生きるための特別支援教育の創造」
【期日】 平成十九年八月五日
【会場】
 笠懸野文化ホール(全体会)
 みどり市笠懸公民館(分科会)
【公演】
 劇団ブーメランによる演劇
【講話】 「劇団と共に」ブーメランのげきづくりから特別支援教育の基本を考える」
 講師 桐生市教育委員会
 学校教育課
 前原通宏 指導主事

○**【本県大会派遣役員】**
 ○第四分科会
 「国語、算数等の教科学習
 提案発表者 月ヶ岡養護学校
 司会者 月ヶ岡養護学校
 (ふなおか分校)
 渡辺信子 教諭
 見附養護学校
 高橋 晃 校長
 ○第十二分科会
 「高等部教育」
 提案発表者 高等養護学校
 (てまりの里分校)
 石畑健一 教諭
 長岡市立養護学校
 中澤圭司 教諭
 県立小出養護学校
 青木 仁 校長
 助言者
 司会者
 助言者

◆知的障害部

○研究主題

「特別支援教育の流れの中で」
～学校や家庭で自分らしく過ごすために～

○研修会名

知的障害部研究大会

○研修会の期日及び会場

・期日 平成二〇年十二月二十六日
・会場 県立生涯学習 推進センター

○参加人数 一四一名

○講演者 上越教育大学

教授 大庭重治 様

○会の概略と成果

【講演内容】

- ① 特別支援教育の流れ
- ② 支援の実現に向けて
- ③ 支援のための特性把握
- ④ 動機づけへの配慮

【成果】

学校や家庭の中で自分らしく過ごすには、個人特性や環境特性による支援方法、その根拠となる各種検査や行動観察、そして内発的動機づけの実現へ向けた支援のスタイルが大切であるということについて詳しくお話いただいた。
個人特性の把握について、「PASS」という脳機能の構造に対応した情報処理モデルを用い、注意喚起とプランニングとの相互の関係や、処理タイプ（継次、同時）

◆情緒障害部

○研修テーマ

「発達障害のある児童・生徒の理解と支援のあり方」

○研修会名

新潟県特別支援教育研究会
情緒障害部 担任者研修会

○研修会の期日及び会場

・平成二十年八月八日（金）
午後一時から四時

・新潟県民会館小ホール

○参加人数 一八三名

○講師・演題

岡山県倉敷市立東中学校
教諭 西 幸代 様

「子どもの社会参加のあり方について」

○会の成果

「ふれジョブ」の構想と実践について、たくさん資料をもとに丁寧にお話をいただいた。子

の得意性を見極めた個々の支援体制の確立こそが重要であると力強く述べられたのが印象深く、大変有意義な研修であった。
今回は幹事会の意向を受けて、保護者の参加を呼びかけた。講演内容は学校職員向きの話であったにもかかわらず、当日は三八名の保護者からご参加いただき、画期的な会となった。

◆言語・難聴部

○総会及び研修会

・期日 平成二十年 七月三十日（水）

○会場 長岡市

長岡市立中央図書館

○参加人数 六十四人

○議事

- ① 平成十九年度事業・会計報告
 - ② 平成二十年度事業・予算審議
 - ③ 役員選出及び承認
 - ④ 幹事会報告
- 講演会（講師）
黒川病院 医師 稲月まどか 様

○演題

「医療サイドから見た
発達障害児のとらえ」

○幹事会

・期日 平成二十一年二月下旬

○会場 新潟市立鏡淵小学校

○参加人数 十人

○議事

- ① 平成二十年度事業・会計報告
- ② 平成二十一年度事業・予算審議

◆病弱肢体不自由部

○全会員を対象として、療育施設や養護学校を見学し、専門家（医療関係者）から指導法に關し、指導・助言をいただく。

○病虚弱・肢体不自由部研修会
○十月十四日（水）
○十四人

○理学療法士 佐藤理美 様

○「筋緊張を和らげるマッサージュ法」参加者からの質問をもとに、具体的に6つの部位のマッサージュを行った。麻痺や変形・萎縮等で実際にどの部位が緊張している、どう和らげることが重要なのかを実際に体験することができた。

